

第十五回運営推進会議アンケート

◎進行中の物価高について

この書面における参加者は、デイサービスセンターえがお・寺島区長・地域包括支援センターよしだ・糸魚川市役所福祉事務所の4拠点となります。以下の項目につきまして、それぞれのご意見をご記入下さい。お手数をおかけしますが、宜しくお願い致します。

1、利用者様数の推移について

(令和5年9月26日現在)

本年3月から本年8月までの利用者数の推移は1日平均12.6名となっております。利用者数は春先まで減少傾向にありましたが、5月から回復基調となり、7・8月は1日平均13名を超えるまで回復しました。利用登録者数も昨年9月から本年2月までの平均で38.5名に対し、8月末時点で48名まで回復しました。

ところが、8月においては死亡や多数の入院に加え、コロナ感染が急増しており、利用者数は急激に減少に転じております。特にコロナ感染は利用者様本人及びご家族にも広がっており、これまでの2～3年の間にも、利用者様本人・ご家族の感染は少なからずあったものの、月当たりの感染状況で言えば、現在は過去最高レベルとなっております。幸いにもスタッフ及び家族に感染者は出ておらず、運営に支障は出ていませんが、9月に入ってから利用者様・ご家族の感染は全く減少しておらず、予断を許さない状況です。

(寺島区長)

利用登録者数が回復した点は潜在的利用希望者がいると思われれます。ただ、コロナ感染等の要因による利用者数の減少には打ち手がない状況は致し方なく、予断を許さない状況であるが潜在的利用者の掘り起こし対策は引き続き必要と思います。

2、現状のえがおの問題点について

(令和5年9月26日現在)

5月・6月に新規利用者数が急増し、7月・8月にピークを迎えましたが、新規の申込みに対し、希望の曜日、利用回数に応じることができないことが数件ございました。原因は1日あたりの利用上限である17名の登録があり、新たに登録が可能な状況にあった為です。ところが実際の利用者数は上述の通り、12～13名

程度であり、希望曜日の偏りを考慮しても少ないのは明らかです。考えられる原因としては、月の半分をショート利用しながら、デイサービスの利用枠は確保されている利用者がいたり、定員ギリギリの曜日を希望しながら、月1～2回程度しか利用がない利用者がいることが考えられます。

現状利用者数・登録者数ともに急減しており、現状のままでも問題ないのですが、いずれは17名から18名への定員変更を検討しております。

(糸魚川市役所福祉事務所様)

・定期利用者のショートステイ利用日を早めに把握し、ケアマネに不定期利用枠ではあるが、利用希望者がいないか確認してみるのはいかがでしょうか。(他の定期利用者の利用日を一時的に1日増やすなど)

(地域包括支援センターよしだ様)

日頃から、地域の高齢者の支援にご尽力いただいておりますこと敬服いたします。新型コロナが5類に移行されて以降、マスクを装着されていない方を多く見受けられています。世間では「コロナが終息」したかのように捉えているかたもおおいのではと感じます。その為に新型コロナだけでなく、インフルエンザの感染者も増えています。

抵抗力の少ない高齢者に関わる私たちにとって、一までも気の許せない状況となっておりますが、「えがお」さんでは職員の方の感染がないことがせめてもの救いと思います。消毒など大変かと思いますが、引き続き感染防止にご留意頂きたいと思います。

利用者数について、定期枠に空きが出た時、ショートの予定で利用が中止が明らかになった時、居宅介護支援事業所などへ、「スポット利用」について情報提供して頂くことで、一日の定員数を確保している事業所もあります。内部で、ご検討いただければと思います。

(寺島区長)

新規の申込みに対し、希望の曜日、利用回数に応じることへの対策はどのように考えるのか。利用上限である17名と実際の利用者数(12～13名程度)の利用内容を整理することで、「隙間日」の解消を図ることができるのかわかりませんが、機を見て教えていただきたい。いずれは17名から18名への定員変更を検討しておることですので、解決の一手になることを期待します。

3、物価高にどう対応するか？

(令和5年9月26日現在)

現在肌で感じる程、あらゆる商品・サービス価格が幅広く値上がりが続いています。えがおにおいては、8月のガソリン使用料が開設後初めて6万円を超えました。ガソリン代及び電気・ガス代は糸魚川市から補助金を頂いており、非常に

助かっておりますが、運営上の支出総額は増加し続けております。幸い年間ベースで赤字経営には陥っておりませんが、経営環境は厳しい状況が今後も続くことが予想され、昇給は全く望めない状況であり、給料が上がらない中、家庭においても光熱費、とりわけ電気代を節約しているとの声が多くあります。

えがおの電気代については、7月に開設時から設置していたエアコンが故障し、新しいエアコンに買い替えたところ（100万程度）、7月使用分の電気代が、1kw当たりの単価が上がっているにもかかわらず、昨年の81,000円から63,000円へ18,000円の削減、8月使用分の電気代が82,000円から69,000円へ13,000円の削減と目に見えて効果が出ており、もう1台開設時より現在も稼働しておりますが、この1台も買い替えを検討中であり、インシヤルコストはかかりますが、電化製品は最新のものに交換するのが長い目で見れば一番の節電対策であるように思います。

また、えがおの昼食のお弁当について、昨年9月までは全て外注でしたが、昨年9月にグループ会社経営の鳥釜が閉店となり、昨年10月より空いた厨房を使用して自前でのお弁当作成に変更しており、外注は水曜日だけとなった結果、毎月の支払額が約20万だったものが、現在は原価に光熱費含めても9万程度しかかかっておらず、年間ベースで130万以上の削減となっております。但し、削減額以上に人件費が増加しており、弁当代の値上げは全く考えておらず、食材の値上がりもあり、厳しい状況に変わりありませんが、加工食品はなるべく使用せず、出来る限り手作りにこだわることで、原価を低く抑えています。また、自家製弁当はメリットが大きく、揚げたて・焼きたてのメイン及び炊き立てのご飯を提供できることに加え、一人一人の食事形態や好き嫌い、アレルギーにも対応できる為、完食率も高く、今後も継続していく方向です。

（ 地域包括支援センターよしだ様 ）

このところの物価高騰は、福祉関係のみならず一般家庭でも家計を圧迫させていると思います。それぞれで創意工夫していくしかないと思います。

（ 寺島区長 ）

物価高の不可抗力には何ともしようがない状況ですが、最大限の努力には頭が下がります。えがおの昼食のお弁当について方策による削減は素晴らしい取組と思います。人件費増加、食材の値上がりもあり厳しい状況と思いますが、メリットが大きく今後も継続していく方向には賛成です。

4、その他

前回、看護師退職に伴う運営上のリスクについて記載しましたが、新たに2名の看護師が採用となり、1名高齢により退職となりますが、看護師1名増の3名体制となり人間的な問題は解決しました。

(糸魚川市役所福祉事務所様)

・看護職員が確保できたことは非常に良かったと思います。人員確保で工夫した点があれば（可能な範囲で）教えていただきたいです。

・9月13日にさいたま市の通所事業所の駐車場で利用者が亡くなってしまうという事故が発生しました。今一度、送迎時の交通事故防止について事業所内でご確認いただき、安全運転に努めていただければと思います。

(寺島区長)

看護師の新たな2名の採用は人材難のところ朗報と思います。糸魚川市医療人材の確保は行政課題でもありますが、個別の人材確保策に私なりの人脈を探っていきたいと思います。

追記；糸魚川中学校寺島地区貢献活動で、ビラオレッタ施設は寺島区の避難所として協力をお願いしている場所でもあり、「デイサービスセンターえがお」さんが施設入居されていることを紹介しました。次世代を担う中学生への地域貢献活動として避難所機能の一助としての施設利用や「えがお」との協働の在り方から、介護・福祉への事業・業務の理解を深めさせていくことが重用かつ必要と思っております。引き続き地域との協働や人材育成へのご支援をお願いいたします。

(地域包括支援センターよしだ様)

コロナの感染者増により、書面開催になったことは残念ですが、運営推進会議では、地域密着通所介護の活動状況（日頃の取り組み等）やインシデントや事故についての報告をして頂ければと思います。又、地域密着型として、地域とのつながりなど、何か取り組んでいることがあれば紹介して頂くなど、運営推進会議の目的は

- ① 地域の方や、利用者のご家族等に対し、情報を公開し、「事業所でどのようなサービスを行っているか」を知ってもらうこと。
- ② 直接的には事業所に関わらない方たちに、事業所の取り組みに意見をもらう機会をつくることは、客観的にみた「当たり前」の暮らしが提供されやすくなる。
- ③ 自社・自事業者による「抱え込み防止」。
- ④ 地域との連携確保。

地域の皆さんに、利用者の様子を知ってもらうこと、事業所で行っている取り組みを知ってもらうことで、一緒にイベントを催す等の活動に繋がり、地域の皆さんと高齢者を支えることを考えていくのも、この会議を行う目的です。